

第5章 景 観

5-1 概 要

新建築物の存在が、地域景観に及ぼす影響について検討を行った。

5-2 調 査

現地調査により、現況の把握を行った。

(1) 調査事項

地域景観の特性

主要眺望地点からの景観

現況施設の圧迫感の状況

(2) 調査方法

地域景観の特性

現地踏査により行った。

主要眺望地点からの景観

住民や不特定多数の人が眺望できる場所を選定し、そこから事業予定地の方向を眺望した景観写真を撮影した。

現況施設の圧迫感の状況

事業予定地に近い主要眺望において、天空写真を撮影した。また、圧迫感の指標の一つである形態率を求めるために、この地点における形態率図を作成した。(形態率の概要は、資料7 - 1 (資料編 p.296) 参照)

なお、形態率を求める高さは、地上1.6mとした。

(3) 調査場所

地域景観の特性

事業予定地周辺

主要眺望地点からの景観

図2-5-1に示す12地点とした。

現況施設の圧迫感の状況

図2-5-1に示す2地点とした。

(4) 調査期間

現地踏査、景観写真及び天空写真の撮影は、平成21年8月24日及び8月26日に実施した。

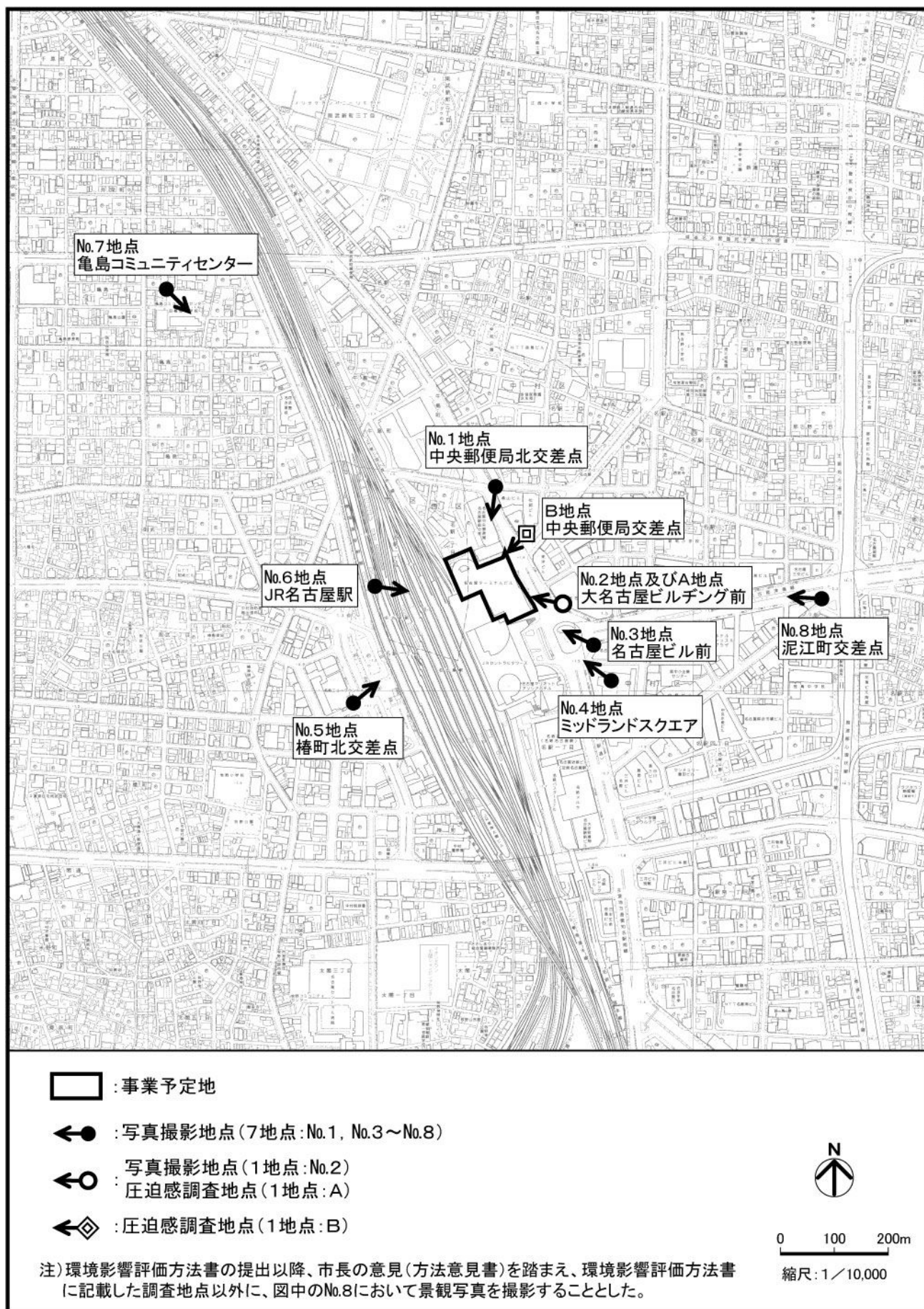


図 2-5-1(1) 景観調査地点図 (近景及び中景)

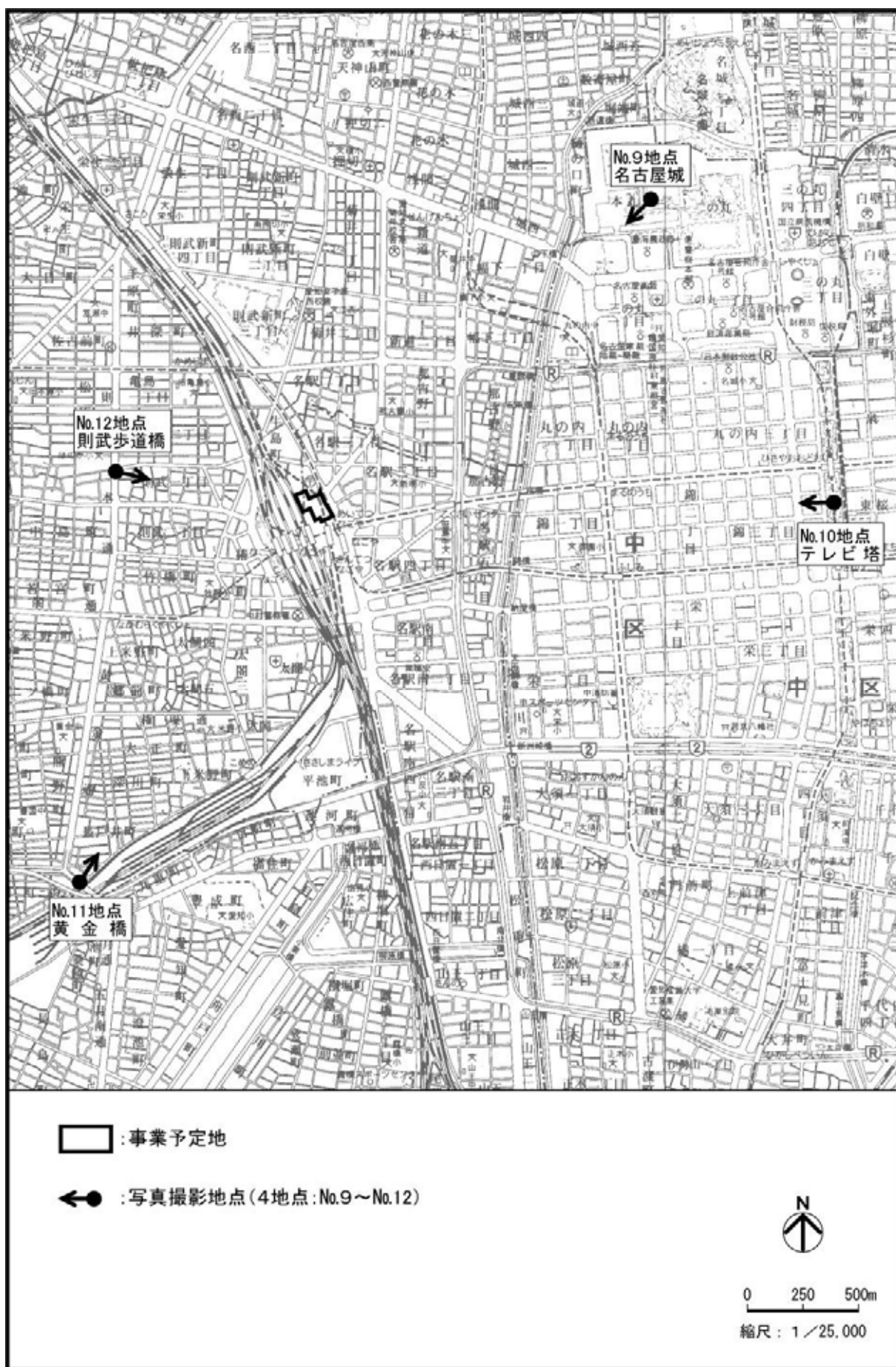


図 2-5-1(2) 景観調査地点図 (遠景)

(5) 調査結果

地域景観の特性

事業予定地は、JR 東海、名鉄、近鉄、地下鉄及びあおなみ線の鉄道駅に近接し、市内バス並びに高速バスの拠点である名古屋バスターミナルを備え、主要な幹線道路に面する地区である。また、事業予定地周辺は、タワーズ、ミッドランドスクエア、名古屋ルーセントタワー等が建ち並び、名古屋市の玄関口としての都市景観が形成されつつある。

事業予定地及びその周辺の状況は、写真 2-5-1 に示すとおりである。



写真 2-5-1 事業予定地及びその周辺の状況（撮影日：平成 20 年 11 月）

主要眺望地点からの景観

主要眺望点からの景観の状況は、後述する予測結果の現況の写真（写真 2-5-2～写真 2-5-13）に示すとおりである。

現況施設の圧迫感の状況

A 地点及び B 地点における天空写真の撮影結果は、後述する予測結果の現況の写真（写真 2-5-14 及び写真 2-5-15）に、事業予定地及びその周辺における建物の形態率は、後述する表 2-5-1 に示すとおりである。

5-3 予 測

(1) 予測事項

新建築物による景観の変化及び圧迫感の程度とし、具体的には、以下に示す項目について検討を行った。

- ・ 主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観
- ・ 圧迫感の程度

(2) 予測対象時期

新建築物の存在時

(3) 予測場所

主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観

現地調査を行った 12 地点とした。

圧迫感の程度

現地調査を行った 2 地点とした。

(4) 予測方法

予測手法

ア 主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観

主要眺望点における現況写真に、新建築物のイメージ図を描画したフォトモンタージュを作成して予測を行った。

なお、事業予定地の隣接する北側では、北地区新建築物の建設が計画されているので、フォトモンタージュを作成する際にはこの計画も含めて行った。

イ 圧迫感の程度

現況の天空写真に、新建築物のイメージ図を描画することにより、存在時における形態率を算定し、変化の程度を予測した。

なお、事業予定地に隣接する北側では、北地区新建築物の建設が計画されているので、イメージ図を描画する際にはこの計画も含めて行った。

予測条件

新建築物の配置、形状については、事前配慮に基づき、以下のとおりに設定した。

- ・タワーズ及び周辺施設の景観を考慮し、新建築物のボリュームや棟配置を計画的に調整することにより、国際都市名古屋の玄関口の代表的なイメージとなる品格ある都市景観を創出する。
- ・周辺の既存建物及び北地区新建築物とのデザイン調和を図り、統一感と風格のある建築デザインとする。
- ・名駅通沿いに樹木を植栽することにより、圧迫感の緩和に配慮する。
- ・新建築物の壁面は、縦横ラインを強調するデザインとすることで、鳥の衝突回避に配慮する。

(5) 予測結果

主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観

各眺望点におけるフォトモンタージュは、写真 2-5-2～写真 2-5-13 に示すとおりである。これによると、景観の変化は次のとおり予測される。

ア №1 地点（中央郵便局北交差点・事業予定地北約 150m：写真 2-5-2）

新建築物は、手前に存在する北地区新建築物を隔てて低層棟の一部が眺望でき、周辺と調和した明るい印象を与えている。

イ №2 地点（名古屋ビルヂング前・事業予定地東約 50m：写真 2-5-3）

新建築物は、名古屋駅の顔として定着したタワーズと調和しており、更に壁面及び低層棟上部のセットバックにより、名駅通に対する圧迫感の軽減が図られている。

ウ №3 地点（名古屋ビル前・事業予定地南東約 150m：写真 2-5-4）

新建築物は、名古屋駅の顔として定着したタワーズとデザインの調和を図った。白を基調色とした縦横ラインを強調するデザインであり、統一感と風格を創出している。

エ №4 地点（ミッドランドスクエア・事業予定地南東約 200m：写真 2-5-5）

新建築物は、ミッドランドスクエアのスカイプロムナード（展望台）から眺望でき、壁面及び低層棟上部のセットバック、更には名駅通沿いの樹木の植栽により、圧迫感の軽減が図られている。また、低層棟は、屋上緑化等により、潤いのある空間を確保している。

オ №5 地点（椿町北交差点・事業予定地南西約 300m：写真 2-5-6）

新建築物は、名古屋駅の顔として定着したタワーズとの調和を図り、白を基調色として縦横ラインを強調するデザインとし、統一感と風格を創出している。

カ №6 地点（JR 名古屋駅・事業予定地西約 150m：写真 2-5-7）

新建築物は、JR 名古屋駅のホームから眺望でき、タワーズ及び隣接する北地区新建築物と調和した印象を与えている。

キ №7 地点（亀島コミュニティセンター・事業予定地北西約 700m：写真 2-5-8）

新建築物は、亀島コミュニティセンター（旧亀島小学校）の奥に眺望できるが、亀島コミュニティセンターからの景観の印象に大きな変化は与えていない。

ク №8 地点（泥江町交差点・事業予定地東約 550m：写真 2-5-9）

新建築物は、名古屋駅周辺の中層建築郡の奥に眺望できる。周辺景観の印象に大きな変化はなく、周辺の建物や愛知県道 68 号名古屋津島線（桜通）の街路樹と調和した印象を与えている。

ケ №9 地点（名古屋城・事業予定地北東約 2 km：写真 2-5-10）

新建築物は、名古屋城周辺の緑地と名古屋駅周辺の高層建築郡の中心部に望むことができる。タワーズと新建築物の基壇部分との調和が図られており、全体に調和のとれた都市景観を形成している。

コ №10 地点（テレビ塔・事業予定地東約 2.5 km：写真 2-5-11）

新建築物は、名古屋駅周辺の中高層建築郡とともに建ち並び、現状では散在しているイメージの高層ビルを、隣接する北地区の新建築物とともに連続的につなげる景観の構成要素となっている。

サ №11 地点（黄金橋・事業予定地南西約 2 km：写真 2-5-12）

新建築物は、名古屋駅周辺の高層建築郡とともに建ち並び、タワーズと名古屋ルーセントタワーの間に、隣接する北地区の新建築物とともにバランスよく配置されている。

シ №12 地点（則武歩道橋・事業予定地西約 1 km：写真 2-5-13）

新建築物は、則武歩道橋東向き進行方向のほぼ正面に見渡せ、名古屋の玄関口の代表的なイメージとなる品格ある都市景観を創り出している。

[現 況]



[存在時]



南地区新建築物

写真 2-5-2 № 1 地点（中央郵便局北交差点、撮影日：平成 21 年 8 月 26 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-3 №2 地点（名古屋ビルディング前、撮影日：平成 21 年 8 月 26 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-4 №3 地点（名古屋ビル前、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]

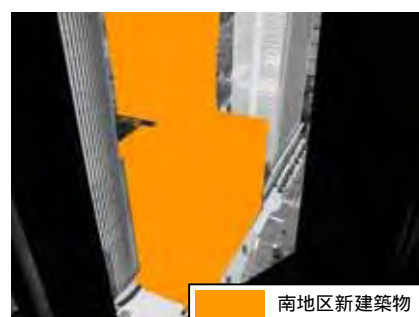


写真 2-5-5 №4 地点（ミッドランドスクエア、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]

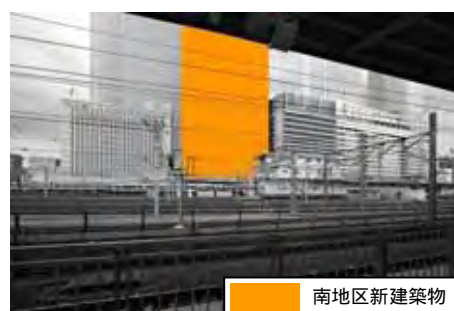


写真 2-5-6 № 5 地点（椿町北交差点、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]



南地区新建築物

写真 2-5-7 № 6 地点 (J R 名古屋駅、撮影日：平成 21 年 8 月 26 日)

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-8 №7 地点（亀島コミュニティセンター、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-9 № 8 地点（泥江町交差点、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-10 № 9 地点（名古屋城、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-11 №10 地点（テレビ塔、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-12 №11 地点（黄金橋、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]

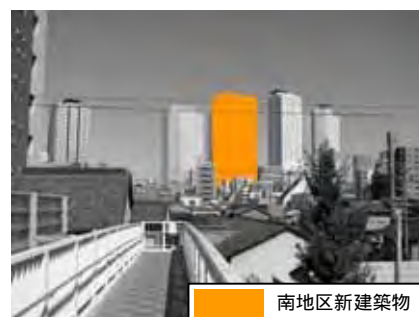


写真 2-5-13 №12 地点（則武歩道橋、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

圧迫感の程度

予測地点における新建築物による形態率は表 2-5-1、天空図は写真 2-5-14 及び写真 2-5-15 に示すとおりである。また、北地区新建築物の計画を含めない場合の天空図は、資料 7 - 2（資料編 p.297）に示すとおりである。

これによると、存在時における形態率は、地点 A で 65%、地点 B で 60% と予測され、新建築物が存在することにより、地点 A は 3 ポイント、地点 B は 4 ポイント増加すると予測される。

表 2-5-1 形態率の変化

予測地点	現況 (%)	存在時 (%)	変化量 (ポイント)
			-
地点 A	62	65	3
地点 B	56	60	4

[現 況]



[存在時]

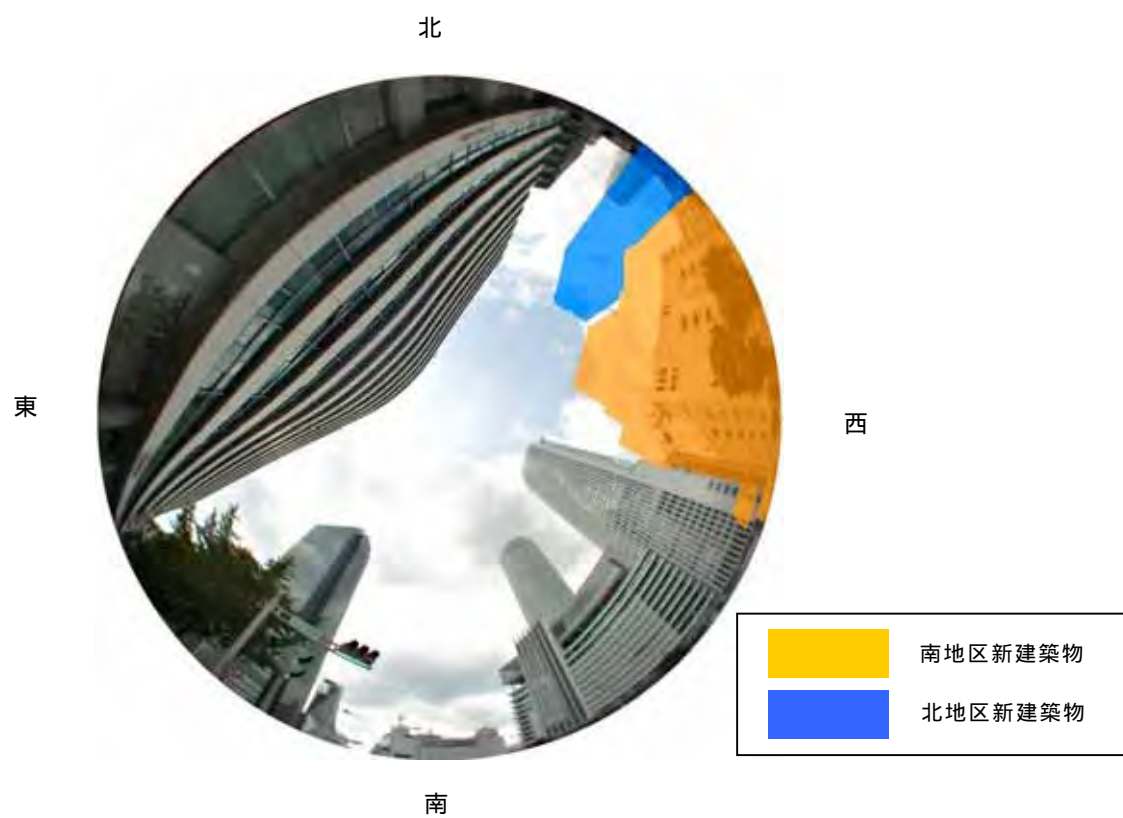


写真 2-5-14 天空図（地点 A：名古屋ビルヂング前）

[現 況]



[存在時]

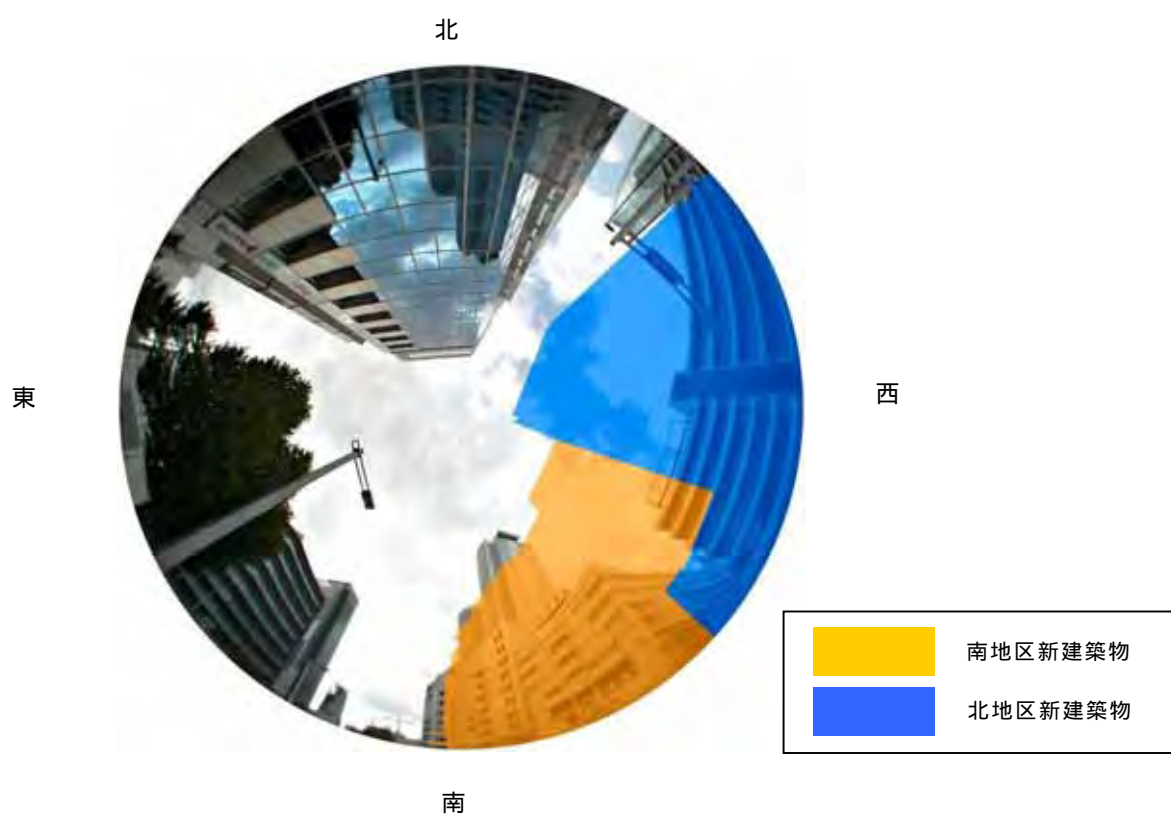


写真 2-5-15 天空図（地点 B：中央郵便局交差点）

5-4 環境の保全のための措置

(1) 予測の前提とした措置

- ・タワーズ及び周辺施設の景観を考慮し、新建築物のボリュームや棟配置を計画的に調整することにより、国際都市名古屋の玄関口の代表的なイメージとなる品格ある都市景観を創出する。
- ・周辺の既存建物及び北地区新建築物とのデザイン調和を図り、統一感と風格のある建築デザインとする。
- ・名駅通沿いに樹木を植栽することにより、圧迫感の緩和に配慮する。
- ・新建築物の壁面は、縦横ラインを強調するデザインとすることで、鳥の衝突回避に配慮する。

(2) その他の措置

- ・新建築物周辺に植栽を配置する。
- ・新建築物の色彩や素材等については、「名古屋市景観条例」に基づき、関係機関と協議を行い、周辺地区における都市景観との調和に努めるとともに、デザイン都市名古屋にふさわしい洗練されたイメージとなるよう配慮する。
- ・事業予定地内における空地の整備にあたっては、素材、色彩や植栽等について、隣接する歩道との調和に配慮する。

5-5 評価

予測結果によると、周辺既存建物の景観を考慮し、新建築物のボリュームや棟配置を計画的に調整することにより、名古屋の玄関口の代表的なイメージとなる品格ある都市景観が創出されるものと判断する。

圧迫感については、新建築物の存在により、形態率は3～4ポイント増加する。このことから、新建築物周辺に植栽を配置する等の環境保全措置を講ずることにより、圧迫感の低減に努める。